

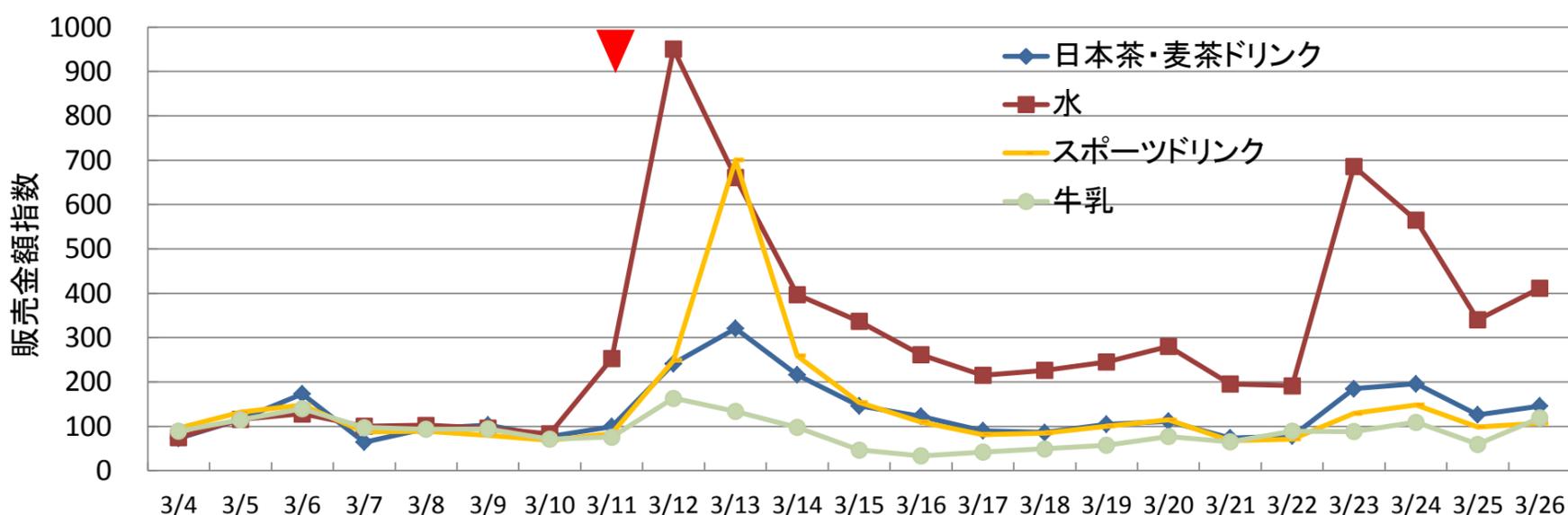
KSP-POS オープンデータ マーケットトレンドレポート

■テーマ 東日本大震災後の食品の販売動向

3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。今回のレポートでは関東地方の震災後の一部カテゴリーの販売状況を分析しました。震災から半月が経過した現在、ほとんどのカテゴリーでは概ね震災前の販売状況まで落ち着いてきていると思われます。下記グラフは各カテゴリーの3月4日から3月10日までの一店舗あたりの平均販売金額の平均を100とした販売金額指数を表しています。

■ 飲料

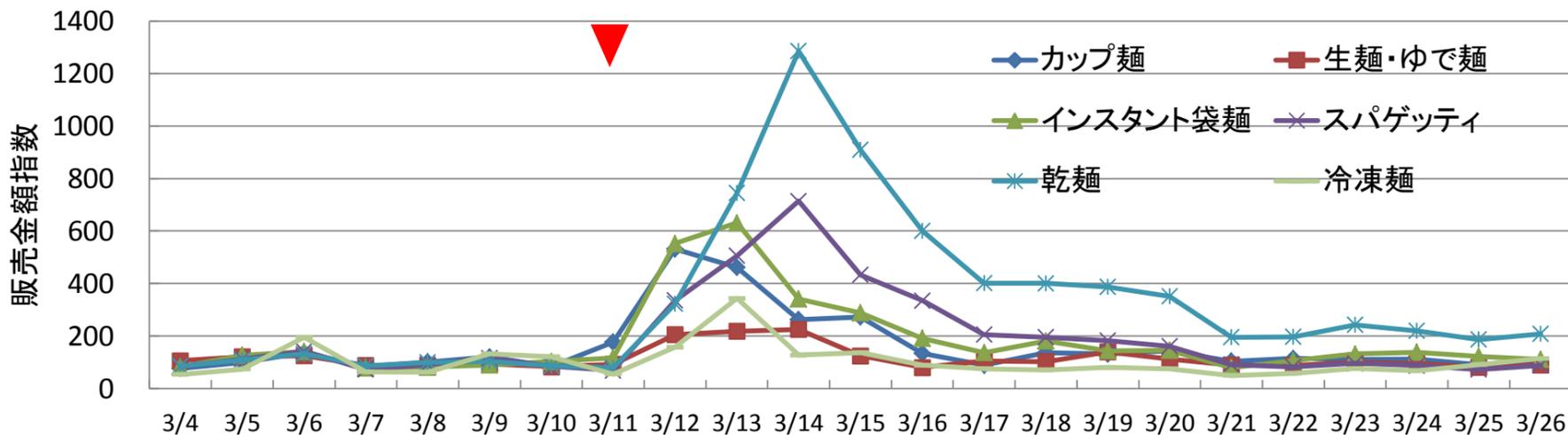
地震のあった11日からどのカテゴリーも販売金額が増加しています。水カテゴリーは地震直後に購入のピークが来ていますが、日本茶・緑茶ドリンクカテゴリーやスポーツドリンクは水カテゴリーより1日遅れでピークが来ています。3月23日に水の指数が大きく跳ね上がったのは、都内の浄水場で暫定基準値を超える放射性ヨウ素が検出されたためとみられます。一方、スーパーの店頭から姿を消している牛乳ですが、震災の次の日12日をピークに以降は販売が減少しており、14日から23日まで指数が100を下回っています。これは震災により加工や流通に支障が出て商品補充ができていないためではないかと考えられます。



※ 各カテゴリーの3月4日から3月10日までの一店舗あたりの平均販売金額を100とした場合の指数

■ 麺類

震災直後に災害時の保存食としても使えるカップ麺やインスタント麺の販売金額が増加していますが、店舗の在庫がなくなると次は乾麺、スパゲッティの販売金額が増加しています。とくに乾麺は26日の時点でも208と高い数値になっており今後もしばらく高い需要が続くのではないのでしょうか。

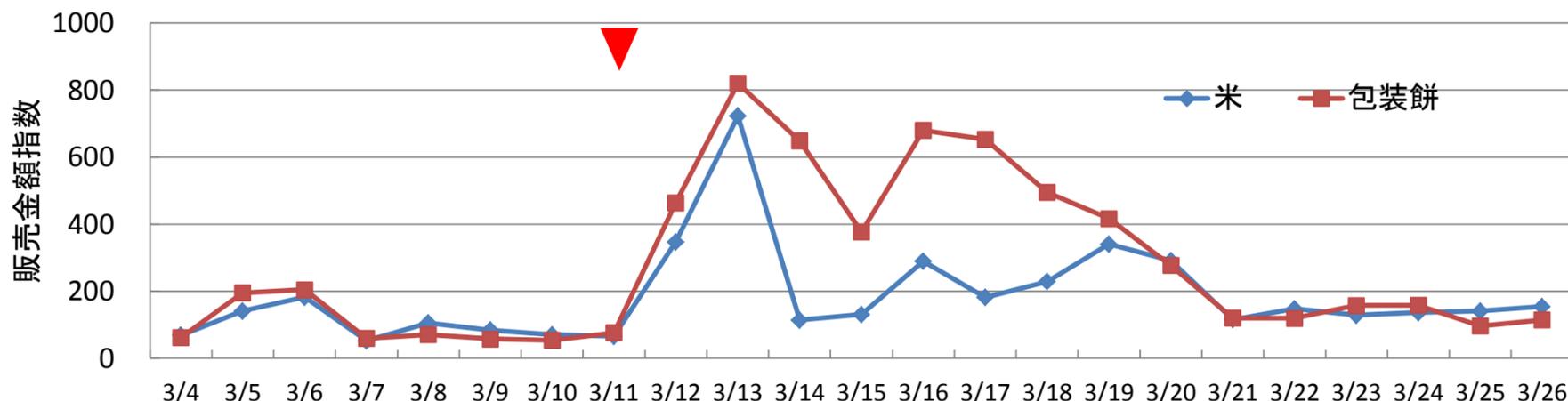


※ 各カテゴリーの3月4日から3月10日までの一店舗あたりの平均販売金額を100とした場合の指数

KSP-POS オープンデータ マーケットトレンドレポート

■ 米・餅

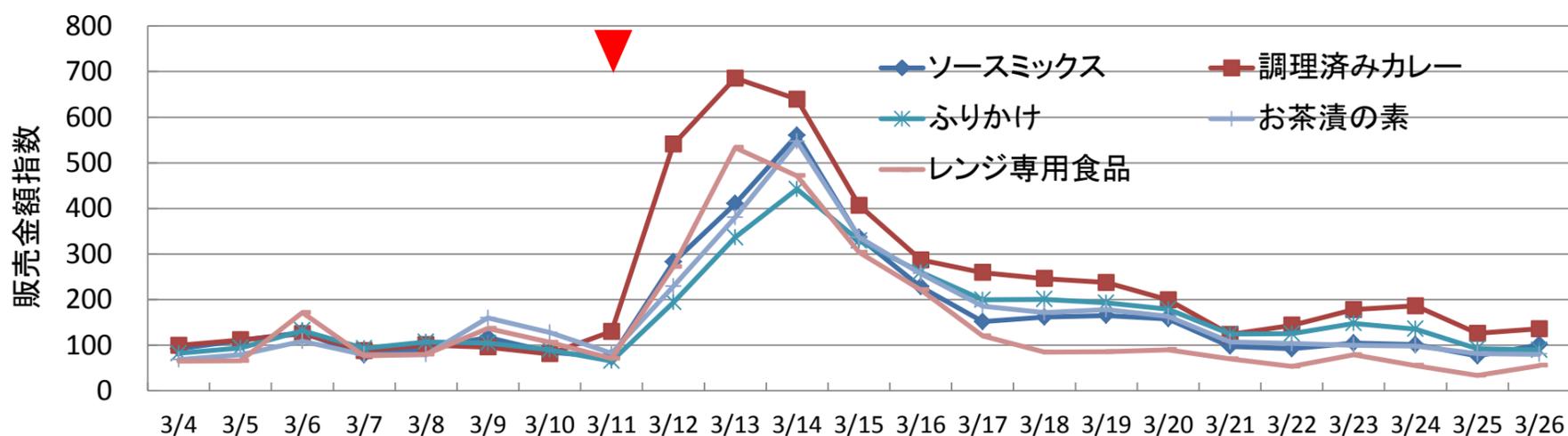
米と包装餅は震災直後から指数が高くなっており、とくに包装餅の販売金額は大きく増加しています。現在は店頭にも在庫が積み、震災前の販売状況と同様の推移となっています。



※ 各カテゴリーの3月4日から3月10日までの一店舗あたりの平均販売金額を100とした場合の指数

■ 調理品

レンジ専用食品やレトルトカレーなど買い置きの保存食に適しているカテゴリーの販売金額が増加しています。また、ソースミックスやふりかけといったカテゴリーの販売も増加しています。これはスパゲッティや米と同時に購入されているためではないかと考えられます。



※ 各カテゴリーの3月4日から3月10日までの一店舗あたりの平均販売金額を100とした場合の指数

■ 分析概要

データ: KSP-POS日次データ(速報最新データ)

期間: 2011年3月4日~2011年3月26日

地域: 首都圏、北関東 約80店舗

* KSP-POSは全国約800店舗の食品スーパーから収集した販売情報データベースです。

■ 当社サービス・レポート内容に関するお問い合わせ

株式会社KSP-SP

〒105-0013

東京都港区浜松町1-2-1 一光浜松町ビル4F

TEL: 03-5472-7650

FAX: 03-5472-7651

<http://www.ksp-sp.com>

ksp-info@ksp-sp.com